事　　業	本庄空き家相談センター（A）
提案団体	本庄まちづくり推進協議会
困りごと	・空き家の利活用　　・管理と所有者への意向調査　・空き家の売買、改修と取り壊し ・今後の空き家増加対策　・専門業者との連携
ふせん	

課取り壊し費用 200 万

⑪家財を計画的に処分
⑫家財道具を現金化　フリマ、アプリ（☆）
⑬解体時の古材→現金化？（解体費値引き？）
⑭家財処分の手伝いをシステム化

⑮所有者・希望者　双方にメリットを（双方の「お得感」をつくりだす）
⑯*浜田みすみ*の自主財源事業をもつ
（ex 帰省家族向け　中～長期宿泊施設）
⑰取り壊し費用(200 万)は原則当事者負担。
　持ち主（貸主）と借主の仲介は専門家

⑱（取り壊し費用の対応）住宅メーカーとのタイアップ

・空き家の分類（A～O）→これから（所有者/管理状況/分類/登記登録）
・人口流出　　I・J・Uターン者の情報共有　行政 ⇔ 本庄
・移住希望者　２名いる⇒　家、土地、倉庫など

大工〇　電気〇　水道×　足場×　解体×
車はいれにくい

課空き家を増やさない

①学生等と協力してＤＩＹ
②地元の学生などに安価で貸す
③よそものが来たくなる魅力
④駐車場の確保
⑤現住者の把握（意向、想定相続者等）
⑥生前から家の手放し方のレクチャー（★）
⑦川津・境港方面　近い、便利、バイパス近い
⑧宿泊所として活用
⑨空き家候補（１０年後）も登録する
⑩断捨離セミナー

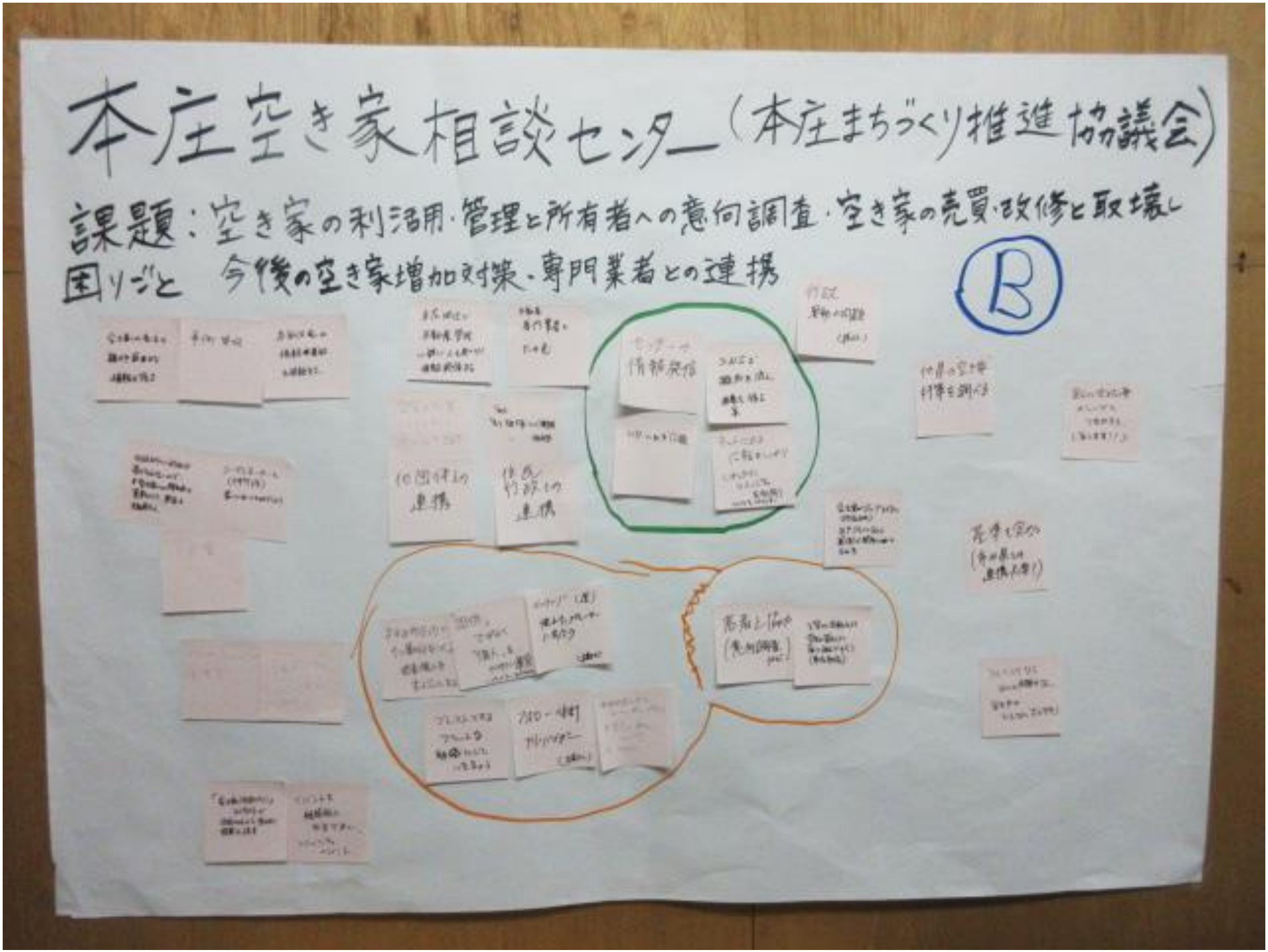
その他

⑲空き家「移住」相談センター
　本庄での暮らしも相談したいのでは？
⑳発信するときの写真が重要
㉑さかさま不動産

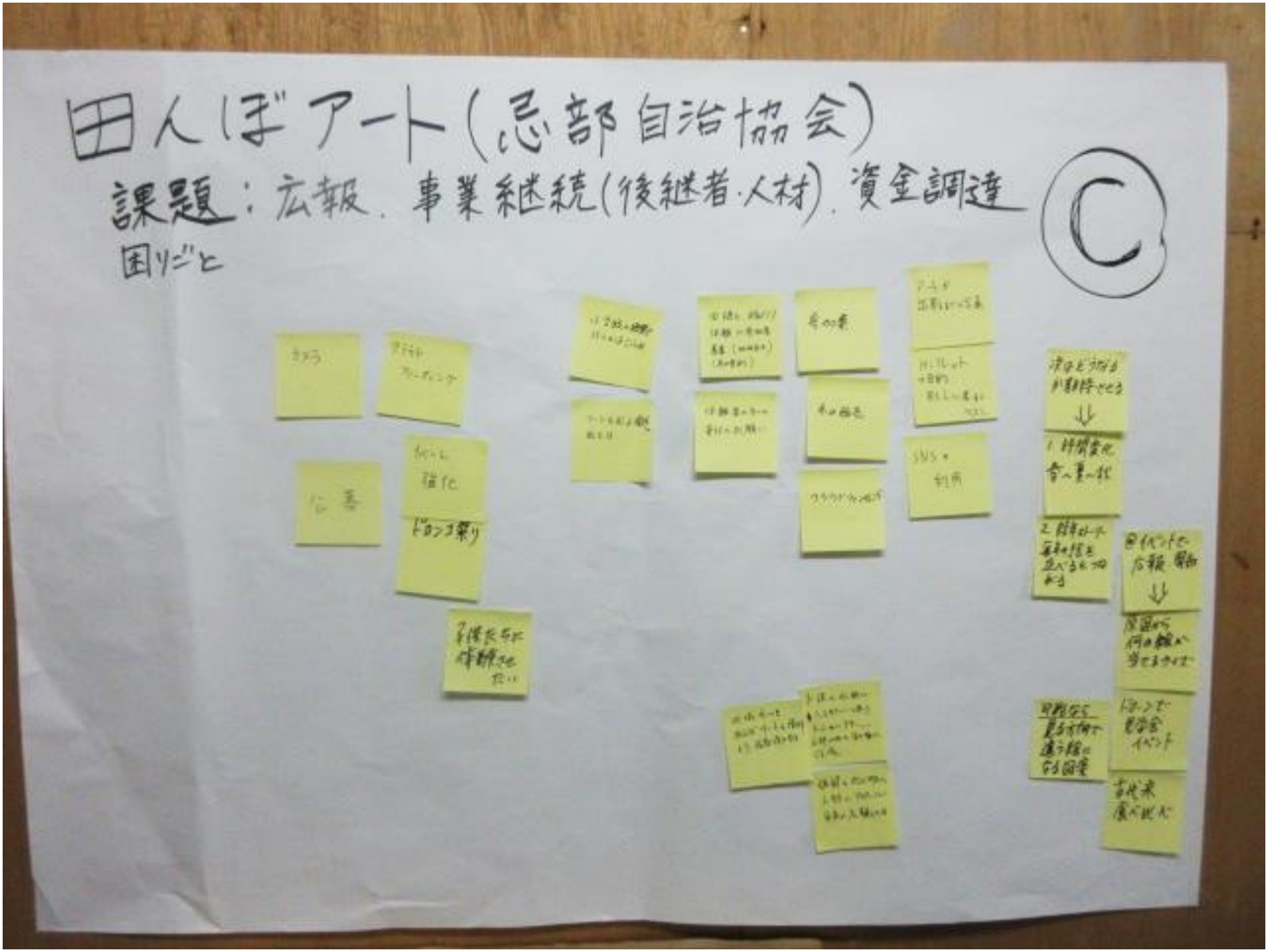
本庄空き家相談センター（本庄まちづくり推進協議会）

課題：空き家の利活用、管理と所有者への意向調査、空き家の売買、改修と取壊し
今後の空き家増加対策、専門業者との連携

事　　業	本庄空き家相談センター（B）
提案団体	本庄まちづくり推進協議会
困りごと	・空き家の利活用　　・管理と所有者への意向調査　・空き家の売買、改修と取り壊し ・今後の空き家増加対策　・専門業者との連携
ふせん	①空き家の家主の親戚筋から情報を得る ②事例収集 ③各自治会に情報収集を依頼する ⑩コーディネーター（仲介役）を置いてはいかがでしょう ⑪永続的に助成を受けられないので、空き家の解決を事業化して、資金を ⑫分業！ ⑬ワーケーションでの利用を ⑭シェアハウスベースに作る ⑮「空き家活用プラン」コンテストで注目されると合わせて投資を促す ⑯イベントを継続的にやるとよいコミュニティイベント ④本庄地区で不動産管理に詳しい人を見つけて情報発信する ⑤不動産専門業者にたのむ ⑥空き家の対策している所とチームを組む ⑦別団体との連携 〃　との相談 ⑧他団体との連携 ⑨住民　行政との連携 ⑰まずは地域間で１つ事例をつくる 若者個人を主人公にする ⑱「団体」ではなく、「個人」を大切に運営する ⑲マッチングに優れたプレーヤーと運営（プレーヤーを大切に） ⑳ブレストできるフラットな組織にしていきましょう ㉑フォロー体制　アドバイザー ㉒相談者の話をしっかり聞く 背景の聞き取り（ニーズ）フォロー ㉗若者と協力（意向調査など） ㉘大学の活動として学生のみなさんに取り組んでもらう ㉓センターの情報発信 ㉔ＨＰによる広報 ㉕ＳＮＳで疑問を流し提案を得る ㉖ネットによる広報をしっかり（オンラインコミュニティを利用） チエノワを使ってね ㉙行政　異動の問題 ㉚他県の空き家対策を調べる ㉛空き家のマップをつくり（所在地）各戸ごとに分かる範囲で間取りを示す ㉜基準を定める （市や県との連携必要？） ㉝里山に住みたいニーズとつながろう （あります！！） ㉞フルリノベならなんの問題もない


本庄空き家相談センター（本庄まちづくり推進協議会）
課題：空き家の利活用・管理と所有者への意向調査・空き家の売買・改修と取壊し
困りごと　今後の空き家増加対策・専門業者との連携
B

事　　業	田んぼアート（C）
提案団体	忌部自治協会
困りごと	・広報　　・事業継続（後継者・人材）　・資金調達
ふせん	①カメラ ②クラウドファンディング ③公募 ④イベント強化 ⑤ドロンコ祭り ⑥子供たちに体験させたい ⑦小学校の授業で行うのはどうか ⑧アートを見る場所の拡大は ⑨田植え、稲刈り体験の参加者の募集 （地域外も）（参加費あり） ⑩体験者の方への寄付のお願い ⑪参加費 ⑫米の販売 ⑬クラウドファンディング ⑭アートが出来るまでの写真 ⑮パンフレット→目的　来た人に渡すとベスト ⑯ＳＮＳの利用 ⑰地域外にも田んぼアートを増やすよう指導なる ⑱子供を水田に入らせたいと思う大人にＰＲ・・・ 忌部の地を見に帰ってくる場 ⑲設計をやってみたい人材にアピール 市民に広報しては ⑳次はどうなるか期待させる ⇓ ㉑Ｉ．時間変化　春～夏～秋 ㉒２．経年ストーリー 毎年の絵を並べるとつながる ㉓イベントで広報・周知 ⇓ ㉔原図から何の絵か当てるクイズ ㉕ドローンで見学会イベント ㉖可能なら見る方向で違う絵になる図案 ㉗古代米食べ比べ


田んぼアート(忌部自治協会)
課題：広報、事業継続(後継者・人材)、資金調達
困りごと
C

事　　業	田んぼアート（D）
提案団体	忌部自治協会
困りごと	・広報　　・事業継続（後継者・人材）　・資金調達

ふせん

①代かきに犬を使う
　自由に走らせると楽しい
②協力がいる部分はイベント化する
③田んぼアートを行っている他団体と
　コラボする
　他団体がニュースに出れば関連して
　取り上げられる

⑭できたお米商品化
⑮収穫したお米で食事（おにぎりなど）
⑯イベント　お店を出す等
⑰参加費用をもらってできあがった米を渡す
　都会地（*外国*）の子供が参加しそう

イチオシ！

ＳＮＳの活用
④ＳＮＳを活用　参加した若い
　人にＳＮＳ拡散をお願い
⑤情報発信（ＳＮＳ）
⑥ＳＮＳ活用
⑦知名度UPのためのＳＮＳ広報
⑧写真撮影スポット　インスタ
　映え

授業の一環
⑨教育の一環として学校
の授業で活用してもらう
（芸術*系*）
⑩デザインの募集

若者
⑪仲間集め（若い世代）
⑫図柄も決める所から若者を
　入れる仕組み
⑬松江高専とのつながり
　例えば松江農林高校と
　つながり

⑱デザインを広く募集する
⑲アートにスポンサーを入れる

田んぼアート（忌部自治協会）
D
課題：広報，事業継続（後継者・人材），資金調達
困りごと
イチオシ！
若者
仲間集め
（若い世代）
SNSの活用
情報発信
（SNS）
SNS
活用
授業の一環

事　　業	空き家を活用した居場所づくり（Ｅ）
提案団体	松江 SPEED
困りごと	・資金調達　・専門高校との連携　・特に若者と５０代の参加・協力・連携

ふせん

魅力的な活動
①大人も子供も参加してみようという一歩
②参加者（会員）が固定化されそう
③地域の選定（特区）
④地元の参加者をどう増やすか
⑤高齢者が顔を出しにくい
⑥ミニ四駆以外の活用における具体策
⑦近所の理解

活動の継続
⑧継続性
⑨収益化
⑩修繕費用の捻出

連携
⑪学校との連携
⑫受け皿側のネットワーク
⑬誰が所有者か判らない
⑭ミニ四駆に使える空き家をどう見つけるか
⑮人的資源（専門家）
⑯学校横断型イベント
⑰技術高校の教育として使える

⑱ストレス発散として壊し放題イベント
⑲一帯を整備しサバゲーとして使用
⑳テレワークの場所として利用
㉑児童クラブ×子供食堂
㉒ミニ四駆のパーツ販売
㉓リフォームコンテスト

㉔廃屋アート（ペイント）
㉕空き家で子ども食堂→ミニ四駆で遊ぶ→勉強する
㉖昭和の遊び
㉗ゴムとび　コマ　竹うま
㉘ベイブレード（こま）

㉙いろんな方をまき込む　幅広い世代

㉚空き家登録をする仕組み
㉛配達員に探してもらう
㉜作品の展示場の提供
㉝旧町村にもコワーキング（wifi）拠点づくり　会費制で利用
㉞空き家の選定（平屋や廃屋など）
㉟終活イベント（これから空き家を増やさないという意味で）

㊱ＳＮＳ発信

㊲松江モデル

空き家を活用した居場所づくり（松江SPEED）

課題・困りごと：資金調達、専門高校との連携
特に若者と50代の参加・協力・連携

E

事　　業	空き家を活用した居場所づくり（Ｆ）
提案団体	松江 SPEED
困りごと	・資金調達　・専門高校との連携　・特に若者と５０代の参加・協力・連携
ふせん	

知名度 UP　　ミニ四駆のまち　市長カー　　You Tube も
⑪自宅近所を聞き込み
⑫各地区に公民館はあるので、拠点（コース）を設置（保管）
　見学会を催す
⑬「教室」「体験会」の開催（費用調達）
⑭仮設　児童クラブで出張する！！

①空き家の一部をシェアハウス（学生・若者）
　→家賃収入を支払分に
②和多見物件
　（２F：和室　１F:キッチン＋カウンター　裏：庭）
③農林高の生徒の指導で野菜づくり

④自作コースの作成

⑤新しい価値を創造する
↕
ミニ四駆
↕
ルールで遊ぶ
遊びを深める

⑥広い場所で出張
様々な遊び場をつくる

⑦ミニ四駆のサークル作り
⑧松江市の子どもの地区対抗へもちこむ（大人をまきこむ）
⑨遊びの種類を増やす
⑩ドールハウス系でも（シルバニアファミリー）
　遊べるように

公益性
小学校むずい
集会所？

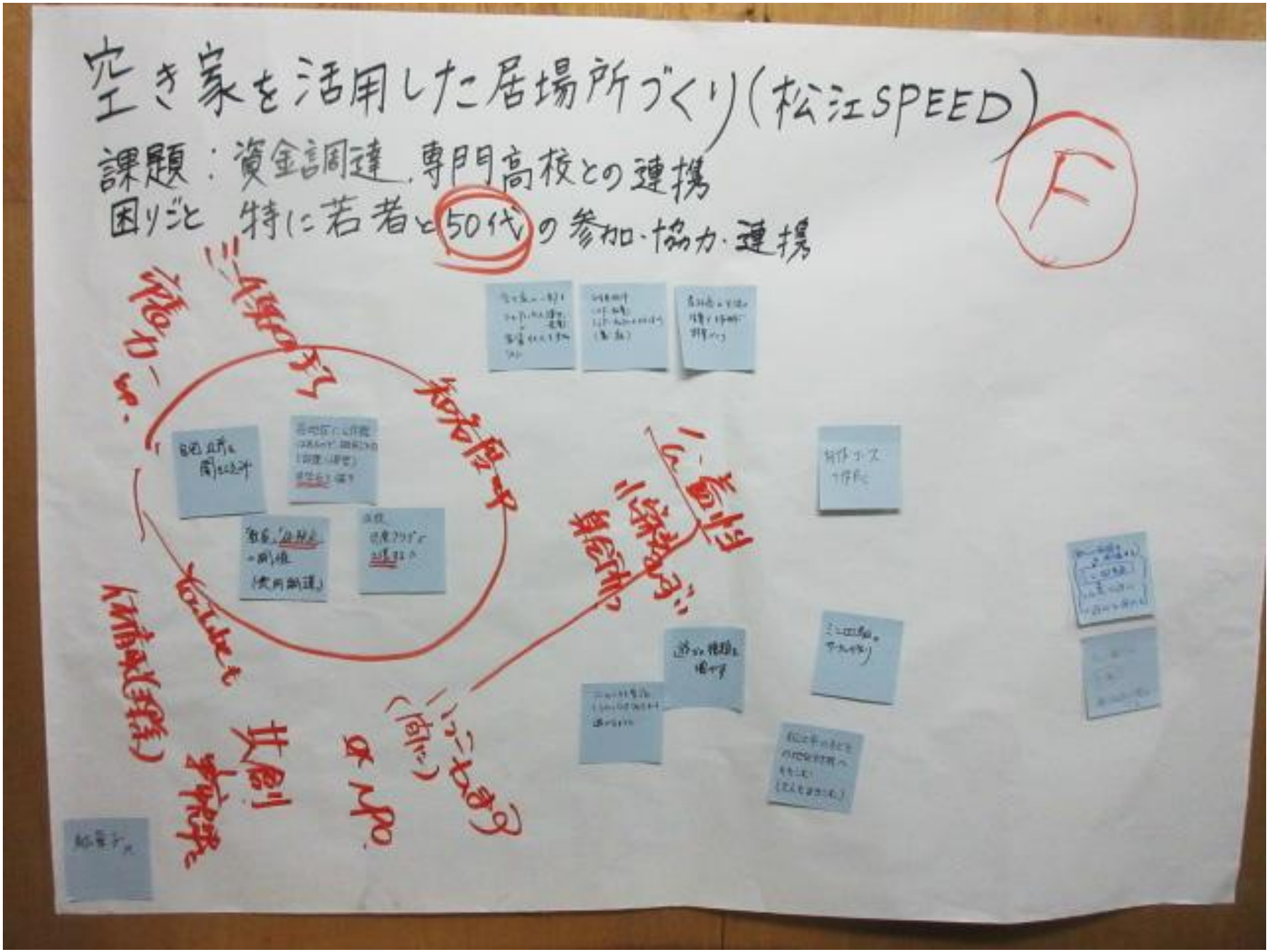
いっこかます（間に）
Ex. NPO
体育成（理系）
共創（市民部と）

⑮駄菓子や

空き家を活用した居場所づくり（松江SPEED）

課題：資金調達、専門高校との連携

困りごと　特に若者と50代の参加・協力・連携



事　　業	大谷地区交流促進（G）
提案団体	大谷地区森の家プロジェクト
困りごと	・スタッフ不足　　・活動拠点問題　・継続運営の資金調達方法

ふせん

スタッフ不足

①大人のやりたいことだけでなく子どものやりたいこと聞いてみる

②スタッフ不足　留学生はイベント等多く参加してくれる
　募集のターゲットを留学生にも当てる

③スタッフ　この活動の「やりがい」をもっと見える化してＳＮＳ等でアピールする

④他団体との連携・協力

⑤子どもたちをお客にしない

⑥地元も知らない　きっかけを作る

⑦スタッフ不足　島大・県立大の観光（地域おこし）興味ある学生に募集をかける

⑧自治会運営の一部に（壮年の活用）

⑨共通　地域づくり・スタッフ集めをするためのコミュニティや手段（ツール）があるとよい

広報集客

⑱ホタルの時期に玉造温泉街からバスが出る。そのバスで竹灯篭の方も巡回してもらう。

⑲光の中を人力車で走る（宣伝効果あり）

⑳城床と併せて公園ＰＲ

㉑ホタルの里をＰＲする

㉒観光協会　玉造温泉とコラボ！！
（旅館組合）

㉘人集め
バーベキューの
場所の提供

㉗しいたけで大鍋
パーティー　食

活動拠点

⑪拠点　安い土地をかって、参加者で拠点を作る活動化する

⑫空屋の利用、学校の空室の利用

⑬拠点　空き家　おかえしに管理してあげる（草抜きとか）

⑭拠点については、大谷にこだわらず玉湯町内であればあるのでは

⑮地域の役にも立てる

⑯活動拠点：空き家を使う（イベント等も行えれば）

⑰空き家ＤＩＹしたい人イベント！！

㉙子ども会とのつながり強化

資金調達

㉓しいたけ事業を拡大し、収入源にする

㉔イベント時寄付をつのる
　行政の補助の利用

㉕資金　親子向けイベントの参加費
例・しいたけさいばい

㉖イベントの際に料金をもらう
（気持ちだけ）

大谷地区交流促進事業（大谷地区森の家プロジェクト）
課題：スタッフ不足，活動拠点問題
困りごと　継続運営の資金調達方法
スタッフ不足
広報集客
資金調達
活動拠点
Gグループ

事　　業	大谷地区交流促進（H）
提案団体	大谷地区森の家プロジェクト
困りごと	・スタッフ不足　　・活動拠点問題　・継続運営の資金調達方法

ふせん

発信（ＰＲ）

①クオリティが高いので映える（ＳＮＳで発信）
　→交流人口増やす
②事前の告知から当日の様子まで動画・ＳＮＳで配信できる予定
③地域外にもイベントとして発信
　竹灯篭作成体験として

資金

⑥資金　クラウドファンディング
⑦資金を年会費として出してくれる会員を集める
⑧取れた栗しいたけをもらえる会員を集める

目的

㉑ねらいは大事
㉒事業の目的を明確にする
㉓☆大谷地区のつながり増
　☆事業化　　どっち
㉔使わない竹を活用して地域の輪を作るなど
　ストーリーづけをして発信するとよい。

場所

⑯場所　空き家
⑰事務所として空き家を活用
⑱大谷小学校を資材置場にする
⑲駐車場の係は地元の協力で
⑳人を呼ぶには駐車場が限られている
（ピストン輸送）

協力・連携

④既存する組織・団体との
　連携・協力
⑤興味関心を持つ人との連携

人材

⑨公民館と中学生
⑩タマめんの活用
⑪大谷から出た人　人材
⑫島根町で毎月海岸清掃をしており、ミライソウゾウのメンバーが参加したいと言ってくれた
⑬大学生とも交流していくので、地域活動としてボランティアは集まるかも
⑭小中学生にも主体的に参加してもらう
⑮地元の中学生の〇〇生ボランティアを学校から集めてもらう

大谷地区交流促進事業（大谷地区森の家プロジェクト）
課題：スタッフ不足、活動拠点問題
困りごと　継続運営の資金調達方法
H
資金
発信（PR）
目的
場所
協力・連携
人材